燕と王子のレポート

ザック・ホワイト

わたしの選んだ本は有島武郎さんの「燕と王子」です。有島さんは1923年６月９日に生まれました。東京の出身でした。北海道の札幌大学を卒業しました。農業の専攻でした。大学生の時自殺しようとしたが失敗しました。ハーバード大学を一年で退学しました。有島さんの代表作は「カインの末裔と或る女」です。この話の登場人物は、王子の像と燕です。王子の像は病気でなくなった若い王子の死を悲しんで、記念として建てられました。王子の像は全て金からできています。燕は所をさだめず飛び回る鳥です。ある年、ドイツに行った時に葦となかよくなり、群れから離れました。仲良くなった葦が「冬は寒くて鳥を殺してしまう。そうしたらわたしは悲しい」と言ったので、燕は冬が来る前にドイツを去りました。燕は王子の像がある村につき、王子に頼まれて金を運びました。この話の舞台はドイツという国のライン川のほとりと、王子の像がある古いまちです。

この話のあらすじは、ある年、燕の群れがドイツにあるライン川のほとりに遊びに行きました。燕たちは夏の日をそこで過ごし、うす寒くなってきたときに南へ旅立つことを決めました。しかし、一羽の燕がやさしい形の葦と仲良くなり、帰ろうとしませんでした。群れは燕に「帰ろう」と誘いましたが、燕はだだをこねてひとりぼっちになってしまいました。それから燕は葦と一緒に過ごしましたが、ある日、葦に「もうすぐ冬が来る。冬は鳥を殺してしまうよ。君が死んでしまったらわたしは悲しい。また来年会おう。」と言われました。燕は葦と一緒にいたいので旅に出ました。あたたかい場所を探して飛んでいると、燕は王子の像がある古いまちにつきました。王子の体は金で出来ていました。像の肩で休んでいると、燕は王子に話しかけられました。王子は「貧しい人に、自分の像から金をはぎとって届けてほしい」と頼みました。燕は像から金を一枚はぎとって、貧しい人の家の中に投げ込みました。金を見つけると、貧しい人たちは涙を流して喜びました。それからも、王子は貧しい人を助けようと「金を運んでほしい」と燕に頼みました。燕は王子に頼まれるまま、金を運び続けました。毎日金を運ばなければいけなかったので、燕は南に帰る暇がありませんでした。王子は自分の金を送り続けたので、最後には体の金がほとんどなくなってしまいました。ある日、燕は地面が白くなっていることに気が付きました。燕がそれを話すと、王子は「それは冬がきた証拠だよ。寒くなる前に南に行ったほうがいい。君が死んでしまったらわたしは悲しい。また来年会おう。」と言いました。燕は泣く泣く南の方へと急ぎました。燕がまちを去って冬が来ると、町の人たちは金のなくなった像を壊すことにしました。像は溶かされてお寺の鐘になりました。その次の年、燕がまちを訪れたときには、王子の像はどこにもありませんでした。

この話の感想は、像がたくさんの貧しい人を助けたのに誰も気にしなかったのが悲しいと思いました。面白かったところは、葦が話をできるところです。わからなかった部分は葦は言葉をどうやって勉強したのかです。あとは、像のバックグラウンドをもっと知りたいと思いました。この話のテーマは「無償の愛」あと思います。作者は、「良いことをしたら、良い結果になる」ことを伝えたかったのだと思います。この話を読んで、誰も気にしないとしても、人を助けることは大切だと学びました。この話とわたしの人生の似ているところは、わたしも鳥が好きなことです。子供のときからたくさんの鳥に囲まれて過ごしました。鳥がたくさんいたので、いろんな鳥の名前がわかります。この話と違うところは、多くの人が王子みたいに優しくないところです。ほとんどの人は、人に優しくするときにおかえしを貰うことを期待していると思います。王子のように、何も求めず人に優しくできるのはとてもすごいことだと思います。